

【 精神看護学 】

授業科目	精神看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 精神看護の変遷を知り、精神看護学の概念を理解する 2. ライフサイクルと精神の発達危機について理解する 3. 精神看護の対象及び看護の目的を理解する 4. 精神看護におけるリスクマネジメントを理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 精神科看護から精神看護へ	1)精神看護学の基本的な考え方 2)精神障害という考え方	講義	
2回	2. 精神看護学に影響を及ぼす諸モデル	1)心のしくみと人格の発達 2)心身の健康に及ぼすストレスの影響 (1)医学モデル(2)精神分析モデル(3)対人関係モデル(4)危機予防モデル(5)看護モデル	講義	
3回 4回	3. 精神の健康を理解するための諸概念	1)ライフサイクルとアイデンティティ 2)愛着理論 3)認知発達理論 4)ライフサイクルと精神看護の課題	講義	
5回	4. 精神の健康に及ぼす因子	1)生物学的因子:遺伝、生化学物質 2)物理的環境因子:ホスピタリズム 3)心理社会的因子:家族、ソーシャルサポート 4)社会構造因子:スティグマ、文化	講義	
6回 7回	5. 生活の場と精神保健	1)精神保健の考え方 2)精神保健における予防概念 3)リカバリーを支える力	講義	
8回 9回	6. 地域における精神保健活動	1)地域生活を支えるシステムと社会資源 2)地域におけるケアの方法と実際 3)災害時における精神保健活動	講義	
10回 11回	7. 精神保健福祉制度	1)精神医療の歴史 2)精神障害と法制度	講義	
12回 13回	8. 看護の対象及び看護師の役割	1)精神科での治療の特徴 2)倫理と人権擁護 3)リスクマネジメントの考え方 4)リスクマネジメントの実際	講義	
14回	9. リエゾン精神看護	1)リエゾン精神看護の歴史 2)リエゾンナースの活動の実際	講義	
15回	まとめ/終講試験			
評価方法	ミニテスト、課題レポート、筆記試験			

テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開(医学書院)
参考文献	

**【精神看護学概論】**

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、精神看護の理解を深める ニュースや新聞等の精神疾患について興味関心をもつ
--------	-------	---------	---

授業科目	精神看護援助技法		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 精神看護の基本技法を学び、対象理解及び援助に必要な働きかけ方を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 精神障害をもつ人との関わり方	1)精神障害者の理解と考え方 2)「患者-看護師」関係の理解 3)関係構築に向けての基本的な態度		講義
2回	2. 精神障害をもつ人とのコミュニケーション	1)コミュニケーションの種類と特徴 2)精神障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴 3)接近・接触技法		講義 演習
3回 4回	3. 精神障害をもつ人との関係の振り返り	1)振り返ることの意味 2)プロセスレコード		講義 演習
5回 6回	4. 回復を支えるプログラム	1)社会生活技能訓練(SST) 2)認知行動療法		講義 演習
7回 8回	5. 患者家族の理解とその援助	1)患者家族の心理 2)家族の負担 3)家族が危機を乗り越えるための援助		講義
評価方法	演習課題、演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開(医学書院)			
参考文献				

【精神看護援助技法】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、精神看護の理解を深める 積極的に演習に参加できるよう事前に演習内容を理解する
--------	------	---------	---

授業科目	精神障害のある対象の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 診察・検査治療を受ける対象に必要な看護を理解する 2. 障害をもちながら生活する対象に必要な支援方法を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	1. 主な症状に対する看護	1) 精神症状と看護 (1) 統合失調症 (2) 妄想性障害 (3) 気分(感情)障害		講義
3回 4回		2) 神経症状と看護 (1) 不安障害 (2) 強迫性障害 (3) 適応障害 (4) 解離性障害		講義
5回 6回		3) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (1) 摂食障害 (2) 睡眠障害 (3) 性同一性障害 (4) パーソナリティ障害 (5) アルコール症 (6) てんかん		講義
7回		4) 認知症の状態にある患者の看護		講義
8回 9回	2. 診察・検査および治療に伴う看護	1) 診察に伴う看護 2) 検査に伴う看護		講義
10回 11回		3) 薬物療法に伴う看護 4) けいれん療法を受ける患者の看護		講義
12回		5) 精神療法を受ける患者の看護 6) 社会療法を受ける患者の看護		講義
13回	3. 安全な治療環境の提供	1) 病棟環境の整備と行動制限 2) 包括的暴力防止プログラム 3) 災害時の安全確保		講義
14回	4. 精神科リハビリテーション療法を受ける患者の看護	1) 精神科リハビリテーションと地域精神保健 2) 地域におけるリハビリテーションサービス 3) 精神科リハビリテーションと今後の課題		講義
15回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開(医学書院)			
参考文献				

【精神障害のある対象の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、精神看護の理解を深める ニュースや新聞等の精神疾患について興味関心をもつ
--------	------	---------	---

授業科目	精神看護学演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 精神に障害のある対象の看護過程が展開できる 2. 対象との関りについて振り返り方法を理解する 3. レクリエーション等の企画、実施について考えられる 4. 精神看護に特有な援助技術を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 精神に障害のある対象の理解	1) 統合失調症の症状と看護		*アクティブラーニング 講義 演習
2回 3回	2. 精神に障害のある対象の看護過程の展開	1) 情報整理と分析(統合失調症の事例)		講義 演習
4回 5回		2) 看護問題の明確化(統合失調症の事例)		講義 演習
6回 7回		3) 看護計画の立案(統合失調症の事例)		講義 演習
8回 9回	3. 看護援助技法演習	1) プロセスレコード(統合失調症の事例)		講義 演習
10回 11回		2) レクリエーション・行事の計画 事例に合わせた企画書の作成		グループワーク
12回 13回		3) 社会生活技能訓練(SST) 事例に合わせて実施		グループワーク
14回 15回	4. 精神に障害のある対象の地域における生活支援	1) 事例に合わせた社会資源の活用		グループワーク
評価方法	演習課題、演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開(医学書院)			
参考文献				

【精神看護学演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む グループワークでは主体的に取り組めるよう事前に演習課題を理解する
--------	------	---------	---

授業科目	精神看護学実習	対象学年・時期	3年次・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	精神に障害をもつ対象の発症に至った経緯と治療経過を理解し、対象に応じた実践する基礎を学ぶ。また、対象との関りをプロセスレコードに取り、自己のコミュニケーション技法の傾向・自己洞察について学ぶ。		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 精神に障害のある対象とその家族について理解する。</p> <p>(1) 対象の病態を器質的・機能的に記述する。</p> <p>(2) 対象の疾患にともなう治療の目的・方法を記述する。</p> <p>(3) 疾患・治療・入院が対象の身体面におよぼす影響について記述する。</p> <p>(4) 疾患・治療・入院が対象の精神面におよぼす影響について記述する。</p> <p>(5) 疾患・治療・入院が対象の社会的役割におよぼす影響について記述する。</p> <p>(6) 精神障害のある患者を支える家族の現状を考察する。</p> <p>2) 看護師に必要な治療的関わりについて理解し、対象のセルフケアレベルに応じた援助が実施できる。</p> <p>(1) 対象の価値観や思いを傾聴する姿勢を示す。</p> <p>(2) 効果的なコミュニケーション技法を実施する。</p> <p>(3) 対象との発展過程段階について述べる。</p> <p>(4) 治療的コミュニケーション技法を用いて一場面を再構成する。</p> <p>(5) 精神障害をもつ対象の強みを記述する。</p> <p>(6) 精神障害が日常生活におよぼす影響を記述する。</p> <p>(7) 対象の日常生活活動に合わせた援助を実施する。</p> <p>(8) カンファレンスを通して自己の対人関係の傾向の傾向を記述(説明)する。</p> <p>(9) 精神科病棟の特殊性について記述する。</p> <p>(10) 精神科病棟の安全管理体制について記述する。</p> <p>(11) チーム医療と協働する専門職の役割、連携の必要性について記述する。</p> <p>3) 精神に障害のある対象に活用できる社会資源について理解する。</p> <p>(1) 制度や地域の現状をふまえ、社会復帰を促進するための施設の役割を記述する。</p> <p>(2) 精神障害をもつ利用者の特徴をふまえ、地域で生活する利用者の現状を記述する。</p> <p>(3) 精神障害をもつ利用者の日常生活機能の維持・向上の方法を記述する。</p> <p>(4) 精神障害をもつ利用者の生活における事故防止策について考察する。</p> <p>4) 保健医療チームの一員として、看護職者に求められる姿勢を身につける。</p> <p>(1) 看護学生としての役割を自覚した行動をとる。</p> <p>(2) 精神看護学実習の特殊性に配慮した責任ある行動をとる。</p> <p>(3) 実習目標の到達に向けて、主体的に学習に取り組む。</p> <p>(4) 医療チームの一員として適切な人間関係をもつ。</p>		
評価方法	評価表による評価		